

鶴見川流域水マスタープラン推進宣言式典
- 第1部 鶴見川流域水マスタープラン推進宣言式 -

1) 開催者挨拶

開催者である渡辺関東地方整備局長より、鶴見川流域での洪水や平常時の水、自然環境、防災、水辺ふれあいなどの様々な課題を流域的視野、水循環系の視点で総合的に扱う水マスタープランの策定経緯と、8月2日の鶴見川流域総合治水対策協議会第5回協議会・第12回幹事会及び第1回鶴見川流域水協議会の発足および、水マスタープランの策定を報告しました。



2) 来賓挨拶

来賓として出席した岩村国土交通省事務次官は、地球環境の変化による災害や都市型水害の防止の重要性を述べ、水マスタープラン推進に当たっては、市民と行政の連携による推進と健全な水循環系の回復推進の重要性を強調しました。そして、国土交通省としても積極的に支援していくと挨拶しました。



3) 鶴見川流域水マスタープラン報告

鶴見川流域水協議会の事務局である海野京浜河川事務所長より、鶴見川流域水マスタープランの概要を報告しました。



4) 鶴見川流域サミットからのメッセージ

流域自治体の各首長から水マスタープラン推進に向けて、メッセージがありました。

松沢神奈川県知事より、典型的な都市河川である鶴見川流域における治水対策の必要性和、特定都市河川浸水被害対策法に則った関係者との連携した取り組みの推進、水マスタープランのモデル地区である港北ニュータウン中央地区における市民・行政が一体となった水辺空間の整備等の神奈川県の取り組みなど、水マスタープランの推進に全力を尽くすとのメッセージがありました。



東京都知事代理岩永建設局長より、鶴見川流域の上流域を占める東京都の役割として、平常時の流量の確保と行政と市民との連携が重要であること、また、各主体ができることには限界があることから、今後より一層の連携を進め総合的な取り組みを推進していきたいとのメッセージがありました。



中田横浜市長より、鶴見川流域の治水安全度は、鶴見川多目的遊水地ができたことなどから格段に向上しているが、都市型浸水被害等の新たな課題もあり、引き続き対策への努力が必要であること、水質等の水環境の健全化のため平常時の河川水量、地下水量を回復し次世代へ豊かな自然を引き継ぐことが必要であること、そして、市民と行政の協働のもとに水マスタープランを推進していきたいとのメッセージがありました。



阿部川崎市市長より、市街地での雨水浸透機能の保全・回復・促進による河川環境の再生、水質改善を図るため合流式下水道からの汚濁負荷削減や下水処理の高度化、緑の基本計画である「かわさき緑の30プラン」の推進に一層の努力を傾け、身近な緑や水辺など、うるおいと安らぎのある人間性豊かな環境を創出し、川を軸としたまちづくりを進めていきたいとのメッセージがありました。



寺田町田市長より、町田市は源流に位置する自治体の役割として、保水機能を有する源流の緑地保全、源流での開発等についてコントロールや山林保全の取り組み、源流域において宅地中心の開発から農業と緑地を確保するまちづくりへの方針転換について、水マスタープランに沿って協力して進めていきたいとのメッセージがありました。



5) 鶴見川流域水マスタープラン推進宣言及び調印

最後に、渡辺関東地方整備局長及び各自治体首長が宣言書に署名し、水マスタープランの推進宣言が調印されました。

